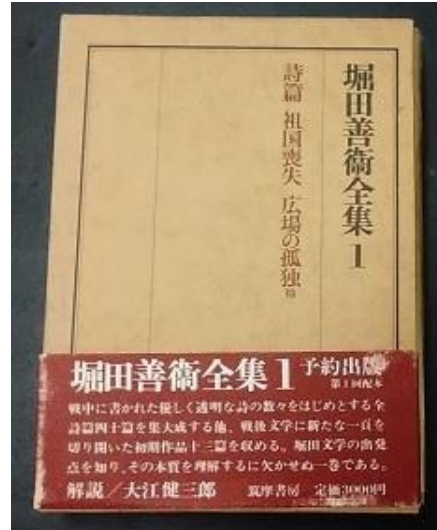


(再掲) 2019年4月1日(月) 朝のうちは晴れ、新元号発表「令和」
『堀田善衛全集』見なおす試み

堀田善衛全集(筑摩書房 1974年6月20日発刊開始)



2020年12月4日(金) 晴

穏やかな晴れが続く。でも「コロナ」で曇る。大阪府は「赤信号」、外出自粛の呼びかけが昨夜あった。人の移動を活発にしたから、こうなるのは予想どおり。とにかく自分で注意、注意。

ー ゆく年くる年、合い間に感じる兆し ー

この時期は毎年同じようなことを書いている。11月が終わり、12月に入ると、新しい年の〈兆し〉を感じるようになるから、それを逃がさないようにしましよ、と呼びかける。

自他ともの大きな流れに注目するようにする。個人的にはあえてそう意識しなくても今では体が覚えて、自然にそうしている。今ちょうど来年の流れと変化が何となく見えてきたところ。

自分の人生にまさか歴史的世界的出来事が訪れようとは想像もしていなかった。東京オリンピック延期のニュースを聞いたとき、“人間、長く生きていたらこういうことに遭遇するのか…”と思った。

昨年末から年初にかけて立てた2020年の「一年の計」は意味がなくなった。自粛期間中には、これまであまりやらなかった縫物をよくして、着ずにいた服や小物を復活させた。

今あるモノを見回すとけっこう使えるものがある。あるものでそれなりに賄える。たしかそんな本も出ていた。「自粛」がなかったら、そういう目線は持てなかったかもしれない。

そして、どうしてこれまでコレを思いつかなかったのだろう、音声。ずっと発信は続けていて、講師の機会もたくさんあるのに、音声で発信することは全く頭に浮かばなかった。

4月末から始めた音声「ひと言ひとり言」は9月からの第2クールで自業史的ショートストーリーをまとめることにした。2016年にまとめた『自業のすすめ』の音声版を7月から始めて11月上旬に完了しアップした。

時代の大きな転換点に、自分の大きな流れをとらえて臨む新しい年。世の中の変化や「コロナ」の着地点も見えないが、個人的に感じる〈気配〉はわるくない。

実際はどうだか、まずは超然と構えてすごそうと自分に言い聞かせる12月初め。

2020年12月7日(月)大雪 晴

先週からずっと晴れ。気温も平年並み、まだ重いコートは不要。今日は「大雪」、2週間後には「冬至」。今年も残りわずか。

ー 『ものすごく、考えました!』 ー

「コロナ」対応は社会的な学習が進み、今回の感染増加でも、4月、5月のようなことはなく、先週5日(土)の「チャレンジマルシェ2020」は予定どおり開催された。散歩がてら出かけた。

9月から10月にかけて開講された塾の受講者たちが、それぞれの業に応じてミニセミナーを開催。けっこう事前申込が入っていて、主催者サイドも安堵。

一段落した受講者と立ち話。開ロ一番、『9月、10月は本当にものすごく考えました、頭を使いました!』。それはそれは何より。そこで最近のエピソードを話して、とにかく考える時間をもつよう勧めた。

つい一週間前、考える、考えない、の話をすることがあった。時間を有効に使おうとして、目も耳も常に何か触れるようにしてしまうと言う人。何もせずじっくり頭をめぐらせるようなことはしていないと気づいたそう。

「そういうことはないんでしょうね」と尋ねられたので、ちょっと大げさながら、「ずっと考えていると言って過言じゃないんじゃないと思いますよ」と返答。

実際、日常の慣れ親しんだことをしながら、いつも何かを考え、その際に閃く小さなことの実践が自分の未来を拓いているといいぐらい。些細なことの積み重ねがある時点で目にみえて作用してくる。

今日もこれから昨日閃いた一つをする予定。

2020年12月11日(金) 晴⇄曇

「コロナ」感染、昨日東京は600人超え、大阪は400人超え。もともと人の多いところには行かない方だが、とにかく避ける。今朝も7時すぎに事務所へ着いた。はやく来て早く帰る。これがいつまで続くのか。

－『他の人とは逆ですね』－

2021年以降は自分の〈我〉を解いて、人の助けにだけにシフトする。10年前からそう心得ている、想定している。

昨年あたりから知人の何人かに、「わたしの人生は来年で終って、残りはもう人のための人生と考えているんでうしよ」と言う、大抵、「えっ、これまでも人のためにやってこられてるじゃありませんか!」と言ってもら

「パーソナル・アシスタント」は人のためになる仕事が役目だから、そう言ってもらえてさいわいだが、ミソは〈我〉を解くということ。はたして実際そうできるかどうかはわからない。人間煩悩の生きものだから。

つい先日旧友にメールすることがあった。ついでに来年からの心づもりを書き足した。しばらくして返信があった。その中に、『他の多くの人は、これからが自分の人生というのに、逆ですね』。

あっ、なるほど…。幸か不幸かずっとシングル、もちろん悪戦苦闘、試行錯誤の道のりだったけど、子育てや家庭生活に奔走する期間はなかった。そう考えれば、自分の〈我〉を解くのは理にかなっている。

妙に合点がいった。これまで自分の思うように生きてきたんだが、これからは人のことだけに焦点をあてればいいということですよ、と天から声が響いたような感覚。2020年12月、個人的には良い年末である。

2020年12月16日(水) 冬晴れ

寒い!昨日から急に寒くなった。今朝はこの冬はじめてロングコートを着た。明日にかけて冬型、ようやく年の瀬感。今年も実質のこり十日。21日は「冬至」、あとは春に向かうのみ。

－「できることから、やる」－

世間は狭い。どこでどうつながっているのか、先日初めて会った人から旧知の人の名。

「よく知っていますよ、でも、わたしと知り合いつて、どうしてわかったんです?」と尋ねたら、やはりネット。FBでその人とつながっていて、そこにわたしの話題があったとか。

初対面のこの方、一応「高齢者」に入るが、ご本人はそんな言葉は自分に当てはまらないと感じている。というより、あまり意識していないと思う。社会問題への関心が高く、本を読み、ネットからの情報もうまく捉え、実際に行動もしている。話を聞いていて、若い!という印象。

定年退職し、悠々自適な生活でもいいはずだけど、そういう晩年にしっくりこない人もいる。年齢に関係なく、今の時代、動こうと思えば社会的インフラは整っている。自身の問題意識に応じて、場や機会は多い。

先月末にあったオンライン京都図書館大会。事例報告者の一人が話の締めくくりに、「できることから、やる」、「できる人が、まずやる」と参加者を叱咤激励していた。

これはすべてに依る。かの初対面の人はそれを実践。わたし自身もそうしているつもりだが、あらためて、心におさめた。自他ともへの関心を失わないこと。それが社会をよりよくする小さな動きのはず。

2020年12月21日(月) 冬至 晴

今日は冬至。陰陽説では、「陰地」がおわり来年の夏至までの「陽地」に入る。梅には「冬至」がある。ひょっとして咲いているからしらと土曜に大阪城公園梅林へ寄ってみた。閑散とした寒空のもと、「冬至」だけが咲き始めていた。一分咲きの後ろにみる新年2021年。

ー 『デフォルトモード・ネットワーク』 ー

ひょっとすると再び「緊急事態宣言」が出そうか、このところの感染者数増加。この土日も街の人の出は前の週より増えていたそう。いったん緩んだ〈気〉はすぐには戻りにくい。

一方で人一倍気にしている人もいる。先日聞いた話では、手を一時間も洗い続ける人を二人知っているいると言う人がいた。洗っても洗っても気になり、家族からは水の音がうるさいと言われるほどとか。

自分の中でどうバランスをとるか。指南する人や書物は多いが、最後は自分の力。いろいろな知恵にふれたとして、さて、何が自分にしっくりくるか、合うか。

時々「偽薬効果」的なものにすばっとはまってしまうこともあるので、注意したい。

『デフォルトモード・ネットワーク』。休息している時に活発になる脳のネットワーク。心の安定と深くかかわっているという。6年前だったか知って、自分の散歩習慣を後押ししてもらった感。

外出自粛でも公園ならOK。今年の年の瀬は、近場を散歩して、静かに過ごすといたしましょう。

2020年12月23日(水) 曇り

早朝はまずまず晴れていたが、しだいに雲が多くなってきた。今日は晴れたり曇ったり？ 気温は平年並み。予報では年末年始は大雪、厳寒。天候面でも、家にこもって吉？ ゆく年くる年。

ー 過去を送る、シュレッダー ー

昨日過去の写真を整理した。13年前から順次、過去の記録を始末してきたが、写真は後回しになっていた。

2年前に葉書・手紙類を最少化した時と同じように、写真も最少化して、3つに集約しようと考えた。

昔のアルバムファイルは、紙が粘着製になっていて、おまけに写真は印画紙の質が低いのか、なかなか剥がれない。爪をひっかけ、力をいれないとダメだから、そのうち、爪の奥が痛くなってきた。

それもそのうち、きれいに剥がれるようになる。こんなところにも技術の進化あり。

アルバムを時系列において、中をみながら、すべてをとり出し、究極の数枚だけを残し、あとはシュレッター。

午前中から始め、昼食で中断したくないほどに、まるで、過去の情景の中に入るよう。あるいは目の前で過去の場면을眺めているような、そんな気持ち、気分、感覚をおぼえて、心地よかった。

過去へのいとおしさがそうさせるのだらうと思う。その時々に関係していた人々との交わり、彼らのその後の人生はいかに。

そして、「我は何者か」を未だ知らずにいる自分自身。どんな未来が待っているか、若さゆえの傲慢さと漠然とした不安感を抱えながらも、自我を大いに発揮にしていた若い自分に笑みがこぼれる。

究極の数枚を残し、あとはシュレッターにかける。一枚一枚入れながら、過去を送る気持ちになる。慈しみとでも言おうか。

過去の手紙や写真を整理して、始末する。その時間は過去を散歩するように感じられた。モノはなくなるが、過去の物語は情景も感覚としても、いつまでも身体に遺る。

昨日は十代から1990年までの究極を残し、アルバム一冊におさめた。2000年手前あたりからはデジタルが普及したが、それでも20年分はかなりの数になる。過去への散歩はまだ続く。

2020年12月26日（土）

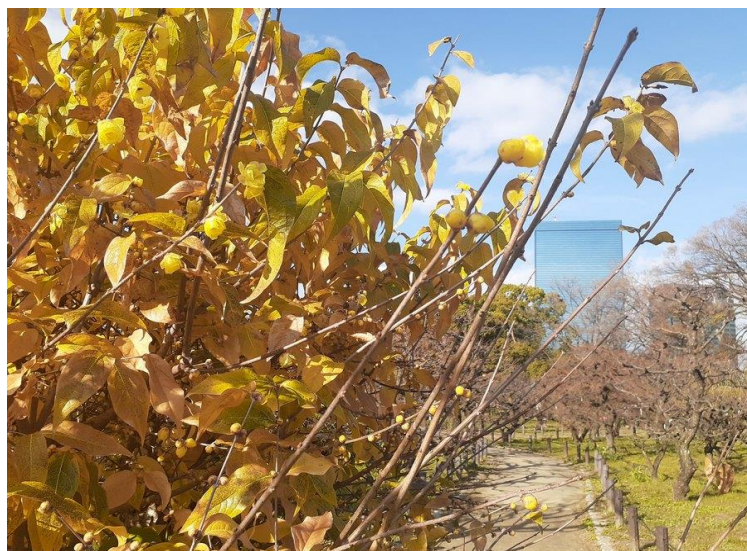
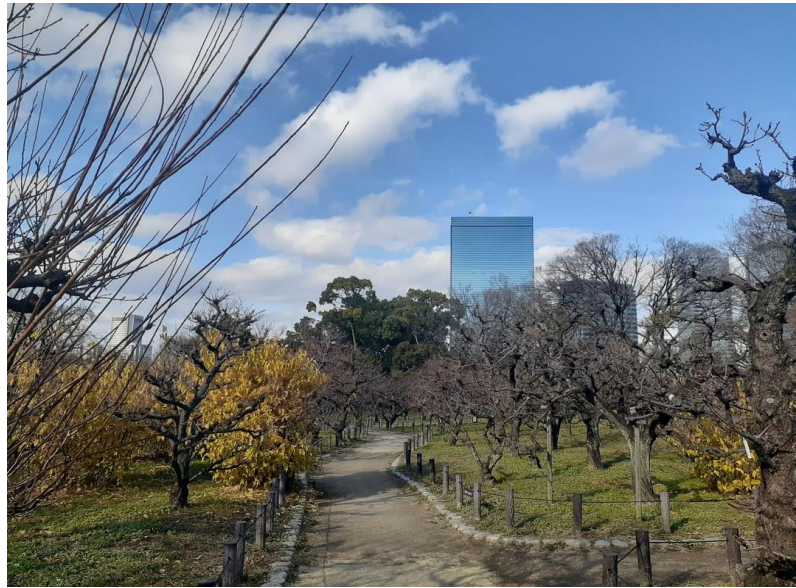
大阪城公園梅林

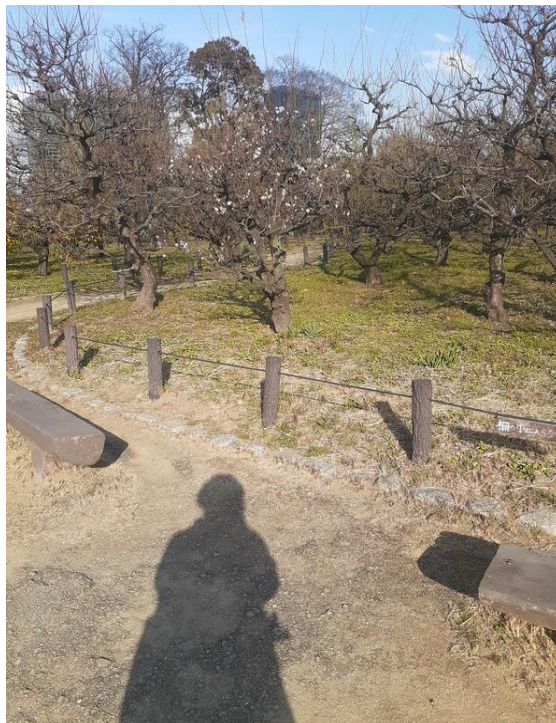
先週「冬至」が咲いているのを確認。蠟梅も花芽が出ていました。そこで今週も行って見たのです。この時期に梅林に入る人は稀、知る人ぞ知る人だけ。

「冬至」は少し花をふやし、蠟梅はちょうど咲き始めたところ。毎年年末のこのタイミングに春の兆しを先取り。

今年は静かなクリスマスで、例年のような急転直下の迎春ムードはなく、淡々と移行している感じ。

来年の今頃はどのような状況になっているでしょう、この世界は。





2020年12月27日(日) 晴れ

昨日、先週に続き大阪城公園梅林に行ってみた。「冬至」の花は少し増えていた。蠟梅が咲き始めていた。この時期に梅林へ入る人は稀。年の瀬に新春の兆しを先どり。

ー よくやりました、できました ー

紙のすべての写真の最少化。なんとか3冊におさめ、25日金曜日に「後始末」を終えた。今となっては何で同じような写真を何枚も撮ってたのだらうと思う。とにかく、数が多かった。

たくさんの昔の写真。どんな昔でも、見ると、すぐに当時を思い出す。それに、そんな昔に感じないのがすごい。『時間は存在しない』を読んだ時、過去から現在が自分の身のまわりにまわりついているように感じたが、本当にそのように思えた。

時系列にたどりながら、一番ゆっくり見直し、ひたったのは、最初の事務所開設時代のもの。旧知の人たちにオープニングパーティーをお知らせした時、ほとんどはビックリ。啞然としていたというのが正しい。

定期的で開催していたLEE'Sサロン。自分を通して知り合い同士がつながれば、何かしらお互いにとって新しい知の交流になるのではないかと始めたものだった。

ごくごく自然そう考え、場を創るための労力はまったく厭わなかった。仕事とは関係ないし、ワインとそれに合う肴を準備して、誰でもが自由に語る「サロン」、そこに意味を感じていた。今もそれは変わらない。

友人知人と初めて参加した人の中に、「何のためにやっているか、ようわからん」と言った人がいた。“えっ、わからない!?”と頭の中で聞き返したことをよく憶えている。

そのうち、徐々にわかってきた、わからなんと思う方が大多数らしいということ。その他にもわかってきたことがたくさん。少しずつ社会と自分に開眼していった。

2年半が過ぎた頃には、“そうだったのか…”という想いに至った。一つの節目である。写真で当時をふり振り返りながら、当時の自分に、「よくやりました、できました」と声をかけてやりたい。あの過去があり、今がある。